

知的障害のある自閉症の中学 1 年生の生徒が居住地校において、音楽の授業による交流及び共同学習を行った事例

1. 事例の概要

A 生徒は、特別支援学校（知的障害）（以下、「B 特別支援学校」という）に在籍する中学 1 年生で、知的障害のある自閉症の生徒である。

本事例は、A 生徒が居住地である C 中学校において、交流及び共同学習（以下、居住地校交流）を行った事例である。A 生徒が興味をもっている音楽で交流及び共同学習に取り組んだが、A 生徒が見通しをもつことができるようスケジュール表や、歌曲の歌詞付き動画を準備して、事前学習をしてから交流に臨んだ。また、合奏では、手指の巧緻性に課題がある A 生徒は、経験したことがあるデスクベルと鍵盤ハーモニカを使用したり、楽譜を作り変えたりするなど、C 中学校の生徒と一緒に演奏できるように配慮した。

キーワード 知的障害、自閉症、交流及び共同学習、音楽、合奏

2. 生徒等の実態

A 生徒は、自閉症の診断を受けている知的障害のある生徒で、B 特別支援学校に在籍する中学部 1 年生である。基本的な生活習慣はほぼ自立しているものの、衣服の前後の確認や箸の持ち方など、細かな部分においては言葉掛けや支援を必要とすることがある。コミュニケーションに関しては、単語や簡単な二語文で会話をしたり、言葉による指示を理解して行動することができる。また、手先の細かな作業は苦手であり、初めての活動や慣れない環境での活動には消極的になりがちである。

3. 本事例に関する基礎的環境整備

- 年度初めに、C 中学校の特別支援教育コーディネーターや交流学級の担任、B 特別支援学校の担任が参加して、居住地校交流全体説明会を実施している。その後は、FAX やメール等を活用し、ねらいや内容など詳細事項を連絡し合った。【基礎 1】
- B 特別支援学校担任が居住地校交流用の個人ファイル（実態や配慮事項、年間計画、実施計画及び評価等）を作成し、C 中学校の担当が同じものを所有することで、共通理解、情報共有をしながら指導に生かすようにしている。【基礎 3】
- 担任が不在となる B 特別支援学校に対して、D 県教育委員会は教員の後補充を行っている。B 特別支援学校では、居住地校交流を実施するにあたって、担任が同行し、A 生徒への支援を行えるようにしている。【基礎 6】

4. 合意形成のプロセス

保護者より、小学部でも行っていた居住地校交流を中学部でも継続して行いたい、同学年の生徒たちに A 生徒のことを知ってもらいたい、A 生徒の兄弟が在籍する C 中学校特別支援学級での活動を中心に、通常の学級と A 生徒の好きな音楽や体育などで交流を行ってほしいとの申し出があった。

そこで、B特別支援学校とC中学校の特別支援教育コーディネーターが打合せを行い、9月と12月にC中学校の特別支援学級の生徒と活動を共にし、通常の学級と音楽の授業で交流及び共同学習を行うことに決めた。また、A生徒のことを知ってもらいたいという申し出に対しては、C中学校居住地校交流ボードにA生徒の紹介や交流の予告などを掲示してもらうことにした。

また、安心して臨めるように、交流で行う曲を事前に伝えてもらうなど具体的な配慮は、教科担任や特別支援学級担任とやり取りをしながら活動計画書に記載し、C中学校と調整や確認をして共通理解を図った。保護者には、事前に合理的配慮の内容を伝え、了承を得た後、作成した実施計画書を配付した。

5. 合理的配慮の実際

- C中学校は生徒数が多く、初めて会う生徒も多いことから、通常の学級との交流のみではA生徒が緊張で疲れてしまうことが予想された。保護者の要望もあり、A生徒の兄弟が在籍する特別支援学級の生徒と交流する時間を設け、特別支援学級の生徒と共に通常の学級の音楽に参加することとした。【合理①-1-1】
- 事前に当日のスケジュールの確認をしたり、交流で使用する教材等を活用したりした。【合理①-1-1】
- 音楽の授業を行うに当たり、A生徒は指の巧緻性に課題があり、リコーダーの穴を指でふさぐことが困難な様子が見られた。そこで、A生徒が慣れ親しんでいる鍵盤ハーモニカとデスクベルをB特別支援学校から持参した。【合理①-1-2】
- C中学校から前もって楽譜を送付してもらい、A生徒が使いやすいように作り直して活用した(写真)。歌の楽譜は、漢字を平仮名に直し、一人で見ながら歌うことができるようにした。合奏の楽譜は、音符毎に色別に示した楽譜を作成し、鍵盤にも同じ色のシールを貼って、楽譜を見ながら鍵盤を鳴らすことができるようにした。
【合理①-2-1】
- C中学校の廊下の掲示板に、居住地校交流ボードを設置し、交流前には、自己紹介や交流の予告メッセージを掲示し、交流後には、A生徒が制作したクリスマスリースや干支の壁掛けなどの季節の飾りや手紙を掲示した。【合理②-2】



写真 楽譜と鍵盤ハーモニカ

6. 本事例の成果と課題

慣れない環境では消極的になりがちなA生徒だが、特別支援学級の温かな雰囲気の中で適宜気持ちを切り替え、通常の学級との交流でも安心して活動することができた。通常の学級の中での音楽の授業では、最初のうちは周りの生徒を見ているだけだったが、小グループに分かれての合唱のパート練習が始まると、声を出して一緒に歌い始める様子が見られた。事前学習をしたり、A生徒用の楽譜を用意したりして練習したことで、見通しをもって取り組むことができたと思われる。また、合奏した曲は、A生徒が鍵盤ハーモニカで演奏した経験があり、自信をもって取り組むことができ、音楽の教科担任にも褒められ、達成感を味わうことができた。